

## 筑前町高齢者相互支援について

筑前町シニアクラブ連合会

会 計 倉 掛 弘

筑前町は平成 17 年 3 月 22 日に、旧夜須町と旧三輪町の合併により誕生した町で、面積約 67 平方キロメートル、人口約 3 万 2 百人となっております。

従来より米、麦、大豆の普通作を中心とした農業地帯でしたが、近年は福岡都市圏や久留米広域圏に近接しているという、恵まれた立地条件を背景に、人口の増加を続けてきました。筑前町の町章は「ち」の文字を基調に、未来に躍動する人を象徴的に表現しており、赤は太陽、青は大空、緑は大地で、自然豊かな筑前町をイメージしています。わかりやすい代表的なもので、大刀洗平和記念館、道の駅「みなみの里」等があります。

筑前町では地域支え合い推進で、下記の取り組みをしています。

- 地域、個人からの相談対応
- 行政関係機関との連携（地域ケア会議、随時関係機関への相談、報告）
- シニアクラブ主催する女性リーダー会支援活動員の会等への参加
- 出前講座「みんなでつくろう！支えあい活動」の開催
- 地域づくりを目的とした活動への取材、参加

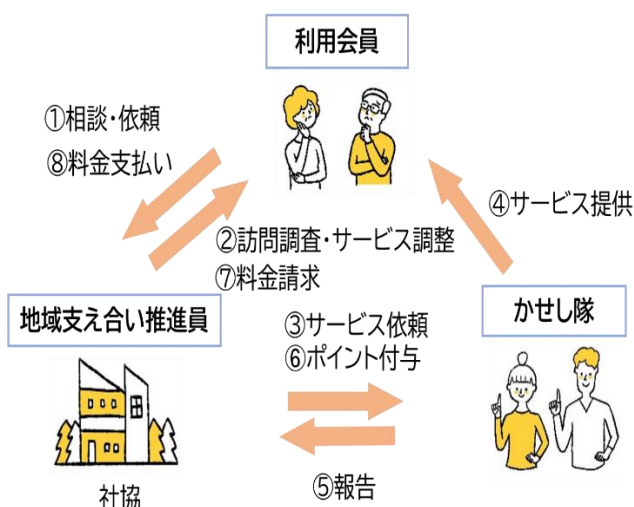
また、令和 3 年から住民参加型有償生活支援サービス事業も行っています。

### ●住民参加型有償生活支援サービス事業

（目的）

支え合いが必要な住民が有償で生活支援サービスを行うことにより「寄り添い支え合う地域づくり」の実現を目指します。

（仕組み）



#### ★かせし隊

支援可能な住民が登録し、支援を希望する方へサービスを提供する団体。

かせし隊員になるには「生活支援サポート講座」の受講が必要。（社協にて随時実施）

※現在登録人数 24 人

（R3 年度より 7 人増加）

#### ★社会福祉協議会

社協は支援を希望する住民とかせし隊をマッチングし、在宅で安心して生活できるようにお手伝いします。

（令和 4 年度の延べ支援回数 285 回）

## 今後の課題

筑前町の自治区が51区に対し令和元年度は46単位クラブあったのが、令和5年度32単位クラブ、1,447名と3割の減少です。毎年脱会休会の動きが止まりません。「女性リーダーが決まらずクラブを解散せざるを得ない」という動きもでていません。

脱会の要因として、「単位クラブの役員になりたくない、会議に出たくない」という理由が大半を占めます。女性リーダー、支援活動員も単位クラブの8割しか選出されていません。

このような状況で一例ですが、今年度単位クラブに所属してない人達で個人加盟（グラウンドゴルフ、ボランティア、支援活動等）で参加できる方を対象に一単位シニアクラブを作りました。これが、脱会、休会された単位クラブの再建になればと願っています。

全単位クラブから支援活動員を出せていませんが、令和4年度の見守り活動は対象者102名、訪問、支援活動で2,801回でした。支援活動員の皆さんに感謝致します。

支援活動員のアンケートのなかで、「訪問して、お顔を見に行ったら、クーラーのきいた涼しいところから玄関にきて、ほんの少しだけ話しても汗をかかれ、行かなかったほうが良かったかなと思ったりします」「自分で頑張って弁当（ピースごはんと筍の煮物）を作り持っていったら、とても喜ばれました、でも次の支援活動員さんを困らせることになるのでは」など支援活動員さんの苦勞がかいまみられます。日常的な活動のほかに、年末に来年の干支の飾り物置物等をみんなで作って一人暮らしの方に配布しています。また11月の町の行事「どーんとかがし祭り」には手芸品、お手玉、かざ車、竹とんぼ等、販売し、そのお金を共同募金に寄付しております。

最後に、こんな素晴らしいシニアクラブがあるのに、皆を誘いきっていない、脱会を許している、これを乗り越えクラブ拡大に努力することです。支援活動員をもっと理解し支援していく必要があります。